経口　鉄欠乏性貧血治療院内フォーミュラリ

監修　消化器内科　井谷智尚部長
産婦人科　近田恵里医長
作成　薬剤部　森良江
2022.4.12改訂　薬剤部　森良江

（診断）
MCV ※1 80fL以下、MCHC ※2 30%以下の小球性低色素性貧血
ヘモグロビン　<12g/dL
総鉄結合能（TIBC）≧360μg/dL
血清フェリチン　<12ng/mL

※1 平均赤血球容積
※2 平均赤血球ヘモグロビン濃度

鉄欠乏の原因治療

※（　）1日薬価2022.4時点

経口鉄剤

第1選択薬	①**クエン酸第一鉄Na錠50mg**（11.4～22.8円/日） ：1日2～4錠（鉄として100~200mg）分1～2回食後 ②**フェロ・グラデュメット錠105mg**（要時）（7.2～14.4円/日） ：1日1～2錠（鉄として105~210mg）分1～2空腹時又は食直後
内服困難	③**フェロミア顆粒8.3%**（14.8～29.5円/日）（要時） ：1日1.2g~2.4g（鉄として100～200mg）分1～2回食後
	④**インクレミンシロップ5%**（6.2円/mL） ：15mL分3（鉄として90mg） ※シロップ製剤のため胃で溶解する必要がないため胃腸障害が少ない。
消化器症状	⑤ **リオナ250mg**（152円/日）（院外専） ：1日2錠（鉄として124mg）分1食直後

①②で消化器症状が強く出れば③④を推奨（鉄含有量を減らして投与）または⑤を検討

※投与開始数日で網赤血球が増加し 2週間で最高に達する。
ヘモグロビンは通常 6～8 週間で正常化

血清フェリチン値

正常化（≧25ng/mL）

投与終了

正常化しない（≦25ng/mL）

①処方通りに服用しているか
②投与量を上回る鉄の損失がないか
③鉄が吸収されていない可能性
④投与量や剤形が適切か
⑤リウマチなど他の病気を合併していないか
⑥診断再評価

②と③に該当

○副作用が強く経口鉄剤が飲めない
○出血など鉄の損失が多く経口鉄剤では間に合わない
○消化器疾患で内服が不適切
○鉄吸収が極めて悪い
○透析や自己血輸血の際の鉄補給

静注鉄剤を選択

参考資料：添付文書、IF、ゼリア新薬HP、鉄剤の適正使用による貧血治療指針 改定[第3版], 2015年, 響文社

静注　鉄欠乏性貧血治療院内フォーミュラリ

監修　消化器内科　井谷智尚部長
産婦人科　近田恵里医長
作成　薬剤部　森良江
2022.4.12改訂　薬剤部　森良江

経口鉄剤

血清フェリチン値正常化しない
（≦25ng/mL）

①処方通りに服用しているか
②投与量を上回る鉄の損失がないか
③鉄が吸収されていない可能性
④投与量や剤形が適切か
⑤リウマチなど他の病気を合併していないか
⑥診断再評価

②と③に該当

参考資料：添付文書、IF、ゼリア新薬HP、鉄剤の適正使用による貧血治療指針 改定[第3版], 2015年，響文社

○副作用が強く経口鉄剤が飲めない
○出血など鉄の損失が多く経口鉄剤では間に合わない
○消化器疾患で内服が不適切
○鉄吸収が極めて悪い
○透析や自己血輸血の際の鉄補給

※薬価2022.4時点

静注鉄剤

商品名(成分名)	**フェジン静注40mg**（含糖酸化鉄）	**フェインジェクト静注500mg**（カルボキシマルトース第二鉄）
投与回数	1日1回投与（週2～3回も可）	週1回投与（1～3回/コース）
投与量	1日40～120mg 総投与量は体重、Hb値を計算式に当てはめる。 患者のヘモグロビン値Ｘｇ／ｄＬと体重Ｗｋｇより算定する。（中尾式１）による。ただし，Ｈｂ値：１６ｇ／ｄＬを１００％とする） 総投与鉄量(ｍｇ)=〔2.72(16－X)+17〕W	1回500mg 総投与量は体重、Hb値から選択する。総投与量は体重、Hb値から選択（上限は鉄として1500mg） 本剤の鉄としての総投与量（投与回数） 体重：25kg以上35kg未満／35kg以上70kg未満／70kg以上 血中ヘモグロビン値 10.0g/dL未満：500mg（500mgを1回投与）／35kg以上70kg未満：1,500mg（1回500mgを週1回、3回投与）／70kg以上：1,500mg（1回500mgを週1回、3回投与） 血中ヘモグロビン値 10.0g/dL以上：500mg（500mgを1回投与）／35kg以上70kg未満：1,000mg（1回500mgを週1回、2回投与）／70kg以上：1,500mg（1回500mgを週1回、3回投与）
投与方法	・静注のみ ・**ブドウ糖**で希釈（1Aあたり10～20%ブドウ糖注射液で5～10倍希釈） ・2分以上かけて静注	・静注又は点滴静注 ・**生食**で希釈（1Vあたり生食100mL） 鉄として2mg/mL未満に希釈しないこと ・5分以上かけて（静注）、6分以上かけて（点滴静注）
薬価	**90円/A（90～270円/日）**	**5969円/瓶（5969円/週）**
選択基準	・低体重の患者 ・コスト面 ・**透析患者** ・血中Hb値**8.0g/dL以上**の患者 ・効果を見ながら**細かく用量設定**したい場合	・血中Hb値**8.0g/dL未満**の患者 （※血中Hb値8.0g/dL以上の患者の場合、診療報酬明細書に理由記載が必要） ・**大幅な**鉄補正が必要な場合 ・**術前早期の鉄補正**が必要な場合 ・外来**患者の負担軽減**が期待される ・再治療の必要性は投与後4週以降を目安とする。

血清フェリチン値正常化後、鉄剤中止後できれば数ヶ月後、少なくとも1年以内に血液を再検すること